

SASセンター

■杉本 幸子 SASセンター長

日本内科学会総合内科専門医,
日本循環器学会専門医,
日本不整脈学会専門医,
医学博士

■高橋 保博 非常勤医師

展望

当センターは、2011年に睡眠時無呼吸科として高橋保博が開設し、2015年よりSASセンターに名称変更後は杉本幸子に加わり、睡眠時無呼吸症候群の診断と治療を行っています。

睡眠時無呼吸症候群は睡眠中の現象であり、自身で気づくことができない疾患です。

睡眠呼吸障害の影響ですが、睡眠の質の低下から日中の眠気や体調不良を招き、仕事の作業効率低下や判断ミスや交通事故につながります。また、睡眠時無呼吸が長期に及ぶと、高血圧や心血管病など内科的疾患の発症につながります。平成26年に改定された道路交通法では重度の睡眠障害など一定の疾患による交通事故への罰則が強化されました。

当センターでは健康面および社会的側面を含め、全ての医療従事者や患者さん周囲に疾患の啓蒙を行い、治療につなげることを第一の目標としております。睡眠時無呼吸症候群の治療の中心となる持続陽圧治療器（CPAP）の適切な導入および管理を行い、治療アドヒアランスの向上に努めています。

また、当院はJCI認定病院であり海外の患者様も可能な限り対応できる体制をとるべくシステム構築中です。

診療実績（2015年）

終夜睡眠ポリグラフィ	143件
簡易睡眠検査	235件

その他

当科の診療は生理検査技師および臨床工学技士の力なしには成り立ちません。睡眠時無呼吸の診断の要である終夜睡眠ポリグラフィ検査は生理検査技師の週末夜間の対応により行われています。治療の中心である持続陽圧呼吸器（CPAP）は臨床工学技士の説明により治療導入がスムーズに行われます。

今年度より簡易睡眠検査の新しい機器（ウオッチパット）が導入され、より患者さんの負担の少ない方法で睡眠時無呼吸症候群や睡眠の質を評価可能となりました。テクノロジーの進歩によりこれらの機器も日々アップデートされているので、知識を深めより良い診療に努めてまいります。